

國學院大學學術情報リポジトリ

産業に関する書籍における複合動詞の使用状況：
後項動詞を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 郭, 翼飛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002343

産業に関する書籍における複合動詞の使用状況 —後項動詞を中心に—

郭 翼飛

1. はじめに

1.1 産業に関する書籍について

まず、産業の定義を見ておく。三省堂大辞林第三版は以下のように述べている。

- ①人間生活に必要な商品・サービスの生産・提供を行うためのさまざまな経済活動。また、業態の似かよった各活動分野の単位。農林水産業・鉱工業などの直接生産にかかわる活動のほか、これらに寄与する運輸・金融・商業・サービス業などがある。
- ②生活のための仕事。職業。「妻の—及びその交遊／明六雑誌 33」〔もともと漢籍にある語。「英和对訳袖珍辞書」(1862年)に英語 industry の訳語として載る〕

また、日本国語大辞典第二版の「産業」の②には、以下のように記述されている。

- ②特に、近代における生産を目的とする事業。農林水産業、鉱工業、建設業など。また、商業、運輸業、金融業など生産に直接たずさわらない広範な事業を含めてもいう。一般的には自然物に人力を加えることにより、創造、増大、使用価値の変更などを行なう経済的形態をいう。

「ビジネス」の定義については、以下のように記述されている。

ビジネス《名》(英business)《ビジネス》仕事。職業。事務。また、事業。商売。特に、情熱とか人情とかを切り捨て、金もうけの手段としてだけにする仕事・事業をいうこともある。

また、ビジネス技術実用英和大辞典には以下のように記載されている。

Business ビジネス、事業、実業、事務、業務、実務、仕事、職務、営業、商工、職業、稼業、(企業などの)景気、商取引、取引、売買、用事、用件、(すべき)事、役目。

以上の産業とビジネスの意味記述を対照させて見ると、産業は製造業、商業、不動産など事業の総称と言えるであろう。ビジネス日本語における複合動詞及び各業種における複合動詞を研究しようとする場合は、まず、産業の広い範囲から複合動詞の使用傾向を把握する必要があると思われる。

1.2 外国人材の活用と外国人留学生の就職傾向と実態

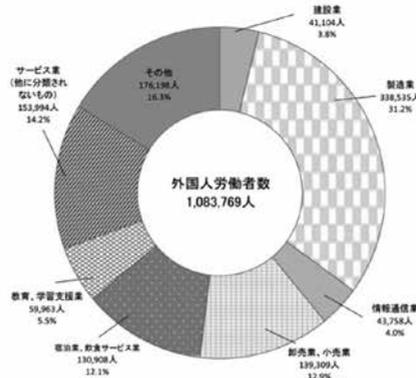


図1. 産業別外国人労働者数

日本の人口減少への対応として外国人の受入れと雇用が拡大している。厚生労働省の「外国人雇用状況」の届出状況⁽¹⁾によれば外国人労働者の状況は平成28年10月末までで外国人労働者数1,083,769人になっている。前年同期比で175,873人(19.4%)増加している。厚生労働省(2016)により、外国人労働者の就業実態を産業別にみると、以上の図1により、外国人労働者が「製造業」に就労している人数は最も多い、338,525人であり、労働者数総数1,083,759人の31.2%を占めている。次いで「サービス業(他に分類されないもの)」が14.2%、「卸売業、小売業」が12.9%、「宿泊業、飲食サービス業」が12.1%、「教育、学習支援業」が5.5%となっている。以上5種類を合わせれば、外国人労働者全体の75.9%であり、8割に近づいている。

以上が外国人労働者全体の状況であるが、その一部である。留学生の場合にはどのような状況にあるかについて見ていく。日本政府は2008年に「留学生30万人計画」を発表した。文部科学省は2016年6月にこの「留学生30万人計画」の実現を目指し、外国人留学生の就職促進に向けた今後の方向性としてまずは日本語能力向上させるために、以下の点を掲げている⁽²⁾。

- ①大学等において、入学後早期からの日本での就職を前提とした日本語習得に向けた意識付け及び学習機会の提供。

これによれば、留学生の就職が非常に重視されていることがわかる。就職活動をうまく行かせるために、大学内で就職支援の一環として、留学生の日本語能力を向上させる必要がある。

また、留学生の角度から見ると、日本における留学生の積極的な受け入れと就職支援の強化に伴い、卒業後日本で就職する留学生が増えている。「平成27年における留学生の日本企業等への就職状況について」⁽³⁾によれば、平成27年度業種別許可人数は製造業3,077人(19.7)、非製造業12,580人(80.3)である。大きな比率を占めている非製造業に

は商業・貿易／コンピュータ関連／教育／飲食業／土木・建設／ホテル・旅館／旅行業／運輸／金融保険／医療／その他を含んでいる。

日本学生支援機構は、平成28年1月に、日本の大学（大学院を含む）、短期大学、専修学校（専門課程）、準備教育機関及び日本語教育機関に在籍する私費外国人留学生（7,000人）を対象に生活実態調査を実施した。その7,000人の内訳は、国立大学68校1,074人、公立大学15校136人、私立大学217校2,633人、短期大学20校59人、専修学校（専門課程）95校1,182人、準備教育課程9校85人、日本語教育機関144校1,831人である。「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査概要」⁽⁴⁾によれば、卒業後の予定は、「日本において就職」を希望した者が3,838人（63.6%）で最も多く、次いで「日本において進学」が3,042人（50.4%）であった。また、「日本において就職希望」と回答した者の就職希望分野は、「翻訳・通訳」1,431人（37.3%）が最も多く、次いで、「海外業務」1,299人（33.8%）、「貿易業務」890人（23.2%）である。以上のデータにより、貿易や経營業務に希望する人数が多いため、ビジネス日本語の知識を学ぶことが重要であると考えられる。

2. 先行研究と研究目的

森田（1994）によれば、『例解国語辞典』（1956）を調査した結果、日常的に使用している動詞の四割が複合動詞であり、その総数は1,817語になるという。石井（2007）によると、複合動詞の数は2,494語に上っており、この語数だけでも日本語を学習する際に、複合動詞が重視されるべきであると言える。確かに、すべての複合動詞を習得するのは無理があり、またその中には日本語母語話者もあまり使用していないものが含まれているので、せっかく習っても使う機会がない場合もある。すべての複合動詞を学習者に教えるのは現実的なことではない。これらの問題に答えようとすれば、稿者の考え方はとりあえず、ある程度の数に絞っておいたほうが習得しやすと考えられる。時間的な制限や学習意欲の低下などの理由で膨大な数の複合動詞をすべて教えることができず、導入の優先順位を決める手がかりはまだ見つけられていない。また、森田（1978：73）が指摘するように、「学習者が日本語を学ぶ場合、教科書によって与えられる動詞の殆どは単純動詞である。学習者は個々の単純動詞の意味、用法に習熟するが、それらの動詞を組み合わせた複合動詞については学習の機会があまりない」という現状で、複合動詞について集中的に教わる機会が少ない。しかし、複合動詞の問題は、単に語彙数の上での量的問題だけにとどまらず、上述したように、その語が他の語と連結することによってどのような意味を添えていくか、原義から著しく離れた意味に転化していく場合があること、語彙的に結びつく前の二つの単純動詞から複合動詞の全体的意味が推測しにくいところに大きな問題がある。

複合動詞は複雑な構造を有するため語による難易度が異なり、学習しにくい項目であろう。理解することでも容易なことではなく、使用するのはさらに困難であることが予測できる。従来の日本語教育では複合動詞をどのように効率よく指導するのかについてまだ明らかにされていない。語彙を効率的に学習するためには、造語力のある頻度の高い後項動詞を中心に考察することで、複合動詞の理解と運用をするのが有効であろう。従来、学習困難項目の一つである複合動詞が調査資料にどのように使用されているか、

またどのような特徴があるのかが研究されている。村田（2008）は、文章のジャンル判別のための新たな指標を求め、複合動詞の後項動詞をその指標候補として取り上げている。

ビジネスをする際、特に日本で就職しようとする留学生にとって、伝えられた内容を正確に理解し、自分の意思を明確に表すために、ビジネス場面に多く使われる複合動詞の学習が必要だと思う。現実には我々日本語学習者は競争社会の中でどのような能力を持てれば日本人に負けずに日本で就職できるのか。まず、日本で就労する上で、日本語力が重要であることは疑う余地がない。言語の面では日本語力を伸ばし、特に仕事に関わるビジネス日本語場面に対応できる日本語能力が必要であろう。企業に勤務する外国人社員の場合、日本語が仕事に支障をきたさないように、職場やそれぞれビジネス上でよりよい順調なコミュニケーション能力が求められている。日本語を使い、ビジネスの目標を達成する重要な手段であり、留学生にとってはビジネス能力を見せつける手段でもある。それで、ビジネス日本語能力を伸ばさなければならない。しかし、一般の日本語教育で教える日本語は実践的なビジネスに十分に対応できるとは言えない。それで、本研究で産業に関する書籍を取り上げる理由は次のとおりである。上に述べたように、母語話者によって著された産業に関する書籍に使われている複合動詞を調査することでビジネス日本語における複合動詞の使用状況が把握でき、そのなかで高頻度の語が意味・用法面においても提示できれば学習者への複合動詞の指導に有意義であると考えられる。そこで、本章では産業に関する書籍を資料として複合動詞を調査し、後項動詞を中心に考察を加え、その特徴を見出すことを目的とする。また、学習者が複合動詞を適切に運用するためには、複合動詞の意味を理解するだけでなく、複合動詞が用いられる文型、文型中の複合動詞の出現形式、複合動詞と共に起る語も指導する必要があると思われる。

3. 調査対象とした後項動詞の選択について

複合動詞の前半部分を「前項動詞」、後半部分を「後項動詞」と呼ぶ。たとえば、「切り倒す」において前項動詞は「切る」、後項動詞は「倒す」である。本研究で抽出した後項動詞は、村田・山崎（2012）の複合動詞となる26動詞と、小椋（2014）の30語（A：24語+B：6語）である。そのうち、小椋（2014）は影山（1993）、姫野（1999）で示された30語の中からBCCWJにおける出現状況から造語力が高いと判定したもの24語と、BCCWJにおける出現状況、単位の統一性などから付属要素に加えた6語を対象として検索を行っている。

また、村田・山崎（2012）と小椋（2014）に重複したものを除き、本研究で検索対象とした動詞の語彙素を（ ）内に示す。また、意味的な違いであるため、BCCWJの形態素解析の元になっている解析用辞書UniDicの語彙素と後項動詞とが必ずしも1対1で対応しておらず、例えば、「つく」のように「付く」「着く」「漬く」「衝く」「つく」の5つの語彙素がある場合は、すべて考察する必要があると考える。以上により、本稿で以下の47語を調査対象とした。

あう（会う、合う）、あがる（上がる）、あげる（上げる、揚げる）、あわせる（合わせる）、いる（入る）、いれる（入れる）、おわる（終わる）、かかる（掛かる、懸かる）、かける（掛ける）、きる（切る）、こむ（込む、こむ）、こめる（込める）、すぎる（過ぎる）、だす（出す）、たつ（立つ）、たてる（立てる）、つく（付く、着く、突く、漬く、衝く、つく）、つける（付ける、着ける、点ける、突ける、憑ける、つける）、つづける（続ける）、でる（出る）、とおす（通す）、なおす（直す）、なおる（直る）、ぬく（抜く）、はじめる（始める）、まくる（捲る）、あぐねる（あぐねる）、える（得る）、おえる（終える）、おくれる（遅れる）、かねる（兼ねる）、かわす（交わす）、こなす（熟す）、そこなう（損なう）、そこねる（損ねる）、そびれる（そびれる）、そんずる（損ずる）、つくす（尽くす）、つづける（続ける）、なれる（慣れる）、わすれる（忘れる）、おおせる（果せる）、さす（止す）、つづく（続く）、はたす（果たす）、はてる（果てる）、わたる（渡る）

4. BCCWJを用いた調査

4.1 BCCWJについて

コーパスの定義について、前川（2013）は「ある言語の研究のために、その言語で実際に用いられた用例を大量に偏りなく収集して電子化し、検索用情報を付加したもの」であると述べている。本研究では産業に関する書籍における複合動詞の特徴を求めるためには、大量の産業書籍が必要である。そこで、用例調査の対象として国立国語研究所が作成しているKOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を利用した。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり、今回の研究対象として非常にふさわしいと言えよう。

BCCWJは出版・新聞/雑誌/書籍、図書館・書籍、特定目的・ベストセラー/白書/国会会議録/知恵袋/ブログ/法律/広報誌に分けられている。合わせて1億430万語のデータを格納し、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している。本稿では、ビジネス日本語における複合動詞の使用状況を考察するため、検索対象として出版・書籍、図書館・書籍と特定目的・ベストセラーのうちの産業ジャンルを用いることにした。

4.2 研究方法

用例の収集に当たっては、現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NTを用い、短単位データ1.1を対象に、『中納言』2.2.2.2により、次の検索条件式で検索した。（例として、「始める」の検索条件式を示す。）

例: キー: 語彙素="始める"

```
AND 前方共起: 品詞 LIKE "動詞%" ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY
```

```
IN ((registerName="出版・書籍" GENRE GENRE1="6 産業" AND core="false") OR (registerName="図書館・書籍" GENRE GENRE1="6 産業" AND core="false") OR (registerName="特定目的・ベストセラー" GENRE GENRE1="6 産業" AND
```

core="false"))

```
WITH OPTIONS tglKugiri="|" AND tglBunKugiri="#" AND
limitToSelfSentence="0" AND tglFixVariable="2" AND tglWords="20" AND unit="1"
AND encoding="UTF-16LE" AND endOfLine="CRLF";
```

「中納言」を利用する際に、更新するスピードが速いため、不安定な面への配慮をしなければならない。本研究は2015年6月に公開されたBCCWJの1.1版を用いる。こういう量的データを対象とする際に、単に量的な統計処理だけを考えるのであれば、村田・山崎（2012）で述べたように、BCCWJの形態素解析の精度は約98%であり、約2%の誤解析が含まれている。本研究は検索結果の複合動詞が分析対象として適切かどうかを一語ずつ調べた。各複合動詞の用法を考えていこうとしているので、一語一語具体的に調査する。

以上の方法で、前文述べた47語が産業書籍にどのように使われているのか、どのような使用傾向を持っているのかを調査した。

5. 産業書籍における後項動詞の使用状況

5.1 すべての後項動詞の使用状況

産業に関する書籍における47語の後項動詞によるすべての複合動詞の総数について、延べ語数は1,772語、異なり語数は633語である。複合動詞の延べ語数で順位を決め、上位21語の後項動詞（語彙素をBCCWJで検索して対象語件数は10以上）を選択して以下の表1を作成した。左側から右側までは、複合動詞の使用頻度順位、語彙素読み、語彙素、各後項動詞からなる複合動詞の延べ語数と異なり語数、およびV+V型複合動詞の延べ語数と異なり語数の順に配列してある。延べ語数の総計は1,709語で、本研究における全体の96.4%を占めている。つまり、この21語からなる複合動詞は産業書籍における複合動詞のほとんどをカバーしていると言える。そのうち「始める」は最も多く使用され、本調査における全複合動詞の約19.7%を占めている。次に延べ語数が多い「得る」は15.2%、「続ける」13.8%、「過ぎる」10.3%、「出す」9.5%の4動詞で、これらからなる複合動詞を上記の結果と合わせれば、全複合動詞の約68.5%を占め、約全体の7割をカバーしている。さらに、「切る」5.2%、「兼ねる」5.1%による複合動詞を合わせれば、約78.8%に達する。つまり、産業書籍における複合動詞の中で、この7つの後項動詞からなる複合動詞で約8割がカバーされるということである。

表1. 語彙素をBCCWJで検索した対象語件数10以上の21語

順位	語彙素読み	語彙素	延べ語数	異なり語数	V1+V2型 延べ語数	V1+V2型 異なり語数
1	ハジメル	始める	349	132	246	113
2	エル	得る	270	46	201	43
3	ツヅケル	続ける	245	97	189	87

4	スギル	過ぎる	182	72	172	65
5	ダス	出す	168	69	142	65
6	キル	切る	92	48	75	46
7	カネル	兼ねる	90	26	89	25
8	アウ	会う、合う	51	10	6	6
9	コム	込む	30	16	28	14
10	オワル	終わる	27	14	27	14
10	ツクス	尽くす	27	11	26	10
10	スク	抜く	27	10	25	9
13	アゲル	上げる	24	16	22	14
13	ナオス	直す	24	7	18	5
15	カケル	掛ける	21	17	16	15
16	ナレル	慣れる	18	7	18	7
17	コナス	熟す	16	3	16	3
17	マクル	捲る	16	13	16	13
19	ツケル	付ける	12	7	12	7
20	オエル	終える	10	9	9	8
21	オクレル	遅れる	10	3	10	3
合計			1,709	633	1,361	572

5.2 産業書籍におけるV1+V2型複合動詞の後項動詞の使用状況

研究対象を絞り、V1+V2型複合動詞を中心に考察していく。つまり、サ変動詞+後項動詞（例：協力し合う、信頼し得るなど）、動詞が三つ続く語（例：取り込み始める、引っ張り出す、成り立ち得る、見つめ続けるなど）、およびV1+V2型以外の形（色づき始めるなど）を除いた延べ語数は1,380、異なり語数は573である。使用頻度の高い語は非常に限られていることが認められる。表1の上位7位まででは、V1+V2型複合動詞の順位の変化は見られない。「始める」「得る」「続ける」「過ぎる」「出す」の上位5位を合わせた延べ語数は950語で69.8%を占め、上位6位の「切る」と7位の「兼ねる」に加え、上位7位まで合わせて1,114語で81.9%に至る。これにより、V1+V2型複合動詞の使用状況も全体の8割以上をカバーできるため、この上位7位の語は産業書籍における後項動詞の特徴であると言えよう。

サ変動詞を対象とするか否かによって、順位が変動するので、サ変動詞を含めれば、「合う」は8位であるが、V1+V2型の複合動詞の場合、延べ語数は6語しかなく、21語の中で最下位になる。なぜこのような大きな差が出るのかについて調査してみると、その原因は「サ変動詞+合う」の例が多いことが指摘できる。（V1+V2以外の形はサ変動詞+合う（42）、蹴落とし合う（1）、傷つけ合う（1）、引き立て合う（3）である。42例のうち、「連絡/関連/理解/補完/影響/協力/刺激/分担/融通/対立/共有/主張+し合う」の形からなる複合動詞がほとんどである。また、「会う」と表記されるV1+V2型複合動詞は一例も見られない。

さらに、延べ語数が多ければ、異なり語数も多いという傾向が見られるが、例外もある。2位を占める「得る」に注目すべきである。延べ語数は201語で2位を占め、異なり語数は43語で7位である「切る」の46語より順位が低い。つまり、後項動詞を固定させ、使用頻度が多い複合動詞は必ず結合する前項動詞の種類も多いというわけではない。その反対の意味でも成立できると言える。結合する前項動詞の異なり語数が低いが延べ語数は必ずしも低いというわけではない。例えば、「熟す」の場合、前項動詞の異なり語数は3語しかなく最も低い、延べ語数は16語で13位を占めている。2番目に多く使われる「得る」の場合は、異なり語数は43語しかないが、延べ語数は201語で「続ける」「過ぎる」「出す」「切る」を上回る。

5.2.1 「始める」の使用状況について

5.2.1.1 「出始める」の使用状況について

使用頻度が高い後項動詞からなる複合動詞の使用状況を具体的に見ていく。「始める」は結び付く前項動詞246語が際立って多く、異なり語数は113で圧倒的多数で1位を占めていて、これで造語力が高いということが明確である。その中で、「出始める」が20例で圧倒的に多く使われている。次に使用頻度が高いのは「飲み始める」12語である。それ以下は徐々に頻度が落ちていく形で、「考え始める」6語、「持ち始める」5語、「飼いはじめ始める」5語、「増え始める」5語、「傾き始める」5語、「話し始める」4語、「作り始める」4語の順になる。ただ「出始める」と「飲み始める」の2語による例文が全文246例の13%を占め、大きな比率を占めていると言える。具体的に分析していくと、「出始める」は自動詞として使用される。意味は

- (1) 物事が新たに起こる気配があるさま。
- (2) あるものが外に出つつあること。

となっている。ここでは具体例を2つの分類にしたがって見ていく。「始める」は「開始」のアスペクトを表し、今回の研究対象「出始める」は植物（葉/松茸/芽）との結びつきが強いという傾向が見られる。こういう名詞が（2）で表す意味をイメージしやすく、学習者にとっては学習しやすい語と考えられる。以下の例文①～⑥を見ていくと、農業に関わる書籍に多く使用される傾向が認められる。

- ① 発芽後、密植していれば間引きし、本葉が出はじめたらうすい液肥を施し、雑草は小さいうちに抜き取ります。
 (『絵でわかる園芸植物の殖やし方』伊藤義治著 日東書院 1992)
- ② …植生が変化して出来た松林に、おびただしく松茸が出始めたのである。
 (『まつたけの文化誌』岡村稔久著 山と溪谷社 2005)
- ③ 引用した史料によって明らかなように、室町時代には松茸がたくさん出始めた。
 (『まつたけの文化誌』岡村稔久著 山と溪谷社 2005)
- ④ 埋め込みから二週間程度で芽が出始め、さらに二週間程度たつと収穫可能なキノコに生長する。
 (『キノコ栽培全科』菅野 昭(著) 農山漁村文化協会 2001)
- ⑤ 鉢挿しは土の乾湿に注意し芽が出はじめたら半日かけで管理します。
 (『絵でわかる園芸植物の殖やし方』伊藤義治著 日東書院 1992)

- ⑥ 一方で、立ち葉が出始めて花芽が上がってくると、「肥料食い」の本領を發揮し…
（『睡蓮と蓮の世界』 赤沼敏春, 宮川浩一|著 エムピージェー;マリン企画（発売）2005）

植物だけではなく、⑦⑧動物の場合も適用できる。また、例⑦には、「…が…から出始める」という文型が見られる。

- ⑦ 出産時、状態がさほどよくない仔エイが尾側から出始めた場合、かなり時間がかかる時があります。
（『ザ・淡水エイ』 新川章|文；小林道信|写真 誠文堂新光社 2005）
- ⑧ また頭側から出ない場合、尾は半分ほどに折れ曲がって出始めることも多く、基本的には驚くほど柔軟性のある骨を持っているの…
（『ザ・淡水エイ』 新川章|文；小林道信|写真 誠文堂新光社 2005）

それ以外は、人間および物事など具体的なもの（人/クマ/材料）と結び付いた例文も見られる。以下の例文には意味（1）の「物事が新たに起こる気配があるさま。」という語感が含まれる。

- ⑨ 小値賀の良さや資源がわかり、漂泊を止めて定住にもどる人が出始めていることがわかる。
（『地域文化開発論』 西川芳昭|著 九州大学出版会 2002）
- ⑩ クマ問題の原因は特定できない。なぜそのころからクマが人里に出始めたのか、その理由はよく分からない。
（『熊と向き合う』 栗栖浩司|著 創森社 2001）
- ⑪ えさに向けられるサバが安くなるなど、ハマチ養殖にとっての好材料も出始めている。
（『につぼん魚事情』 時事通信社水産部|著 時事通信社 1998）

以上のような具体的なものと違い、同じく「出始める」で「物事が新たに起こる気配があるさま。」を表すが、抽象的なイメージを持つ名詞との結合も強かった。以下のように（成果/支障/効果/問題/動き/危機感/成果/影響/報告）が用いられるのがほとんどである。例文を見ていくと、

- ⑫ その成果が出始めたのが、小学3年の頃からだった。
（『日本科学技術大学教授上田次郎のどんと来い、超常現象』 上田次郎|著 学習研究社 2003）
- ⑬ 仕事にも支障が出はじめ、啓子も「おかしい」と思うようになった。
（『ペットロス』 香取章子|著 新潮社 2004）
- ⑭ 在庫の減少、店売り価格の値戻しなど減産効果は出始めている。○二年も大手各社減産継続を表明。
（『業界シェア&市場規模』 松井陸|著 日本実業出版社 2003）
- ⑮ いまのように騒がれることはなかった。クマ問題が出始めたころには、八月の終わりから十月にかけて、毎日のように…
（『熊と向き合う』 栗栖浩司|著 創森社 2001）

- ①⑥ 安全の象徴として、ニンニクの芽の価値を訴えようという動きが出始めている。
（『無登録農薬はなぜつかわれた』河北新報社編集局編 日本評論社 2004）
- ①⑦ これではいけないという危機感が、遅まきながら国鉄内部にも少しずつ出始めてきたのは、昭和四十六～四十七年あたりからだったと思う。
（『なせばなる民営化JR東日本』松田昌士著 生産性出版 2002）
- ①⑧ 非市場交換および社会的交換に関する研究成果は出はじめたばかりであるといえる。
（『マーケティング・メタリサーチ』堀越比呂志著 千倉書房 2005）
- ①⑨ 不況による事務所・店舗・工場の閉鎖といった動きの影響が出はじめたようだ。
（『建物サービスビジネス読本』海野勝至・松村京子著 オーム社 2003）
- ②⑩ そうしたなかに、大変すぐれた報告がいくつか出はじめている。最近、特に印象に残っているものの一つに、震災後…
（『ビデオジャーナリズム入門』野中章弘、横浜市海外交流協会共編 はる書房 1996）

以上のように、「出始める」と結び付く名詞は、その名詞自体が持つ具体的意味と抽象的意味とに関わらず、結合することに制限が少ないため、数多くの名詞と入れ替えることができると推測できる。

5.2.1.2 「飲み始める」の使用状況について

「飲み始める」は他動詞として使用される。合わせて12例のうち、1984年に竹本常松・西本喜重によってリヨン社から出版された『みんなの葉草あまちゃづる』では、以下に示すように「アマチャヅルを飲みはじめる」の形で7例見られる。

- ②① アマチャヅルを飲みはじめ、便通がよくなり、痰の出がよくなって、じょじょに効果があらわれはじめ
- ②② アマチャヅルを飲みはじめたところ、皮膚がかゆくなりました。
- ②③ 夜遅くまで仕事をする人が多いイラストレーターの人が、アマチャヅルを飲みはじめたときに、やはりあなたと同じような体験をしています。
- ②④ 血圧を定期的に検査しながら、うすめのアマチャヅルを飲みはじめてください。
- ②⑤ アマチャヅルの場合も、飲みはじめると便がやわらかくなります。
- ②⑥ 定期検診で胃潰瘍の診断を受けていたのでアマチャヅルを飲みはじめ、まだ四ヵ月ほどです。
- ②⑦ 「安眠できる」というのがあったと思うのですが、アマチャヅルを飲みはじめたらあまりよく眠れなくなりました。

同書では健康関係の話題が多く見られ、「飲み始めたら」「飲み始めると」「飲み始めたところ」「飲み始めたときに」などの後ろに接続するのは、効果や作用を表し形容する文が大多数である。例えば、例②③の「皮膚がかゆくなりました」例②⑦の「眠れなくなりました」などである。この他にも以下に示すように水、ジュース、酒、お茶のような

飲める液体が多く見られる。

- ⑳ なんと水槽の水を飲み始めたのです。

(『「ニヤン」と生まれて玉三郎』 田坂素子|著 新風舎 2004)

- ㉑ …出てきた燗酒をごく自然に手酌で飲み始めた。しかもその飲み方は、ワインか何かを飲むようにじつにスムーズで…

(『立ち飲み酒』 立ち飲み研究会|編 野沢 一馬 (著) 創森社 2001)

- ㉒ 人の肌がとてもきれいになったからと、彼女のグループ六人が全員飲み始めてくれました。

(『月収100万円、わたし主婦です』 小林絃子|著 出版文化社 2003)

- ㉓ 葉の梅酒漬けが一番、乾燥茶を飲みはじめてもう五年、疲労からくる肩こり、頭痛、ひどかった生理痛、歯痛、腰痛…

(『みんなの薬草あまちゃぶる』 竹本常松・西本喜重|編著 リヨン社 1984)

- ㉔ …すると、そのなかの一人がジュースを飲み始めてくれて、その人の肌がとてもきれいになったからと、彼女のグループ…

(『月収100万円、わたし主婦です』 小林絃子|著 出版文化社 2003)

以上のように共起する名詞は具体的なもののみに限られている。それに対して、抽象的な名詞は1例も見られなかった。

6. おわりに

社会が急速に発展している時代に、学習者の多様化とともに学習者の接する日本語も多様化している。日本の企業に就職している外国人社員、また日系企業に就職しようとする学習者のニーズによって、さらに職種や業務が多岐にわたっているだけに、日本語教育の様態も多様化が進んでいく状況である。日本語教育においては、複合動詞は学習困難点の一つとして、どのように取り入れ扱っていくかという疑問が残っている。日本国内と海外では、ビジネス日本語教育が盛んでいる現在、複合動詞の研究がまだ少ないと言える。

そこで、本研究では、産業とビジネスの意味記述を対照させ、コーパスを用いた調査を行った。BCCWJを資料として、産業に関する書籍における複合動詞の後項動詞を取り上げ、特にV1+V2型複合動詞の後項動詞に着目して、使用状況と使用傾向を調査した。母語話者によって著された産業に関する書籍に多く使用されている7つの後項動詞は「始める」「得る」「続ける」「過ぎる」「出す」「切る」「兼ねる」である。この7つ後項動詞からなる複合動詞で全体の8割がカバーされている。これは広い意味でビジネス日本語における複合動詞の使用傾向が表れているためと考えられる。そして高頻度の語「始める」の中でも大きな比率を占める「出始める」「飲み始める」を意味・用法面から分析し、共起する名詞の傾向について考察を加えた。今後は、本章で指摘した複合動詞と共起する名詞の傾向を把握した上で専門語彙を入れ替えれば具体的な場面においても有効に対応することができよう。このような方法で説明することは学習者への複合動

詞の指導に有意義なことであると考えられる。

今後は、さらに業種別についての調査を行い、各業種における複合動詞の使用状況と特徴を考察していく。各分野における頻度の高い複合動詞をまとめて比べれば、それぞれの分野で用語の特徴が発見できると考えられる。

〔注〕

- (1) 厚生労働省 (2016) 「「外国人雇用状況」の届出状況」 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000148933.html>
- (2) 文部科学省 (2016) 「外国人留学生の就職促進について」によるものである。
http://www.jasso.go.jp/gakusei/career/event/guidance/_/_icsFiles/afieldfile/2016/06/29/12_h28guidance_ryugakuseission_monkasyou.pdf#search=%27%E2%91%A0+%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%AD%89%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%A6%E3%80%81%E5%85%A5%E5%AD%A6%E5%BE%8C%E6%97%A9%E6%9C%9F%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%AE%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%A7%E3%81%AE%E5%B0%B1%E8%81%B7%E3%82%92%E5%89%8D%E6%8F%90%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%9F%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E7%BF%92%E5%BE%97%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E6%84%8F%E8%AD%98%E4%BB%98%E3%81%91%E5%8F%8A%E3%81%B3%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%A9%9F%E4%BC%9A%E3%81%AE%E6%8F%90%E4%BE%9B%E3%80%82%27
- (3) 法務省 (2016) 「平成27年における留学生の日本企業等への就職状況について」
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri07_00111.html
- (4) 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) (2016) 「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査概要」 http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/h27.html

〔参考文献〕

- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 村田年 (2008) 「文章と複合動詞—論述文ジャンルを特徴づける新たな指標を探して—」『日本語と日本語教育』慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター36号
- 村田・山崎 (2012) 「自然科学系書籍における複合動詞の使用傾向—後項動詞を指標として—」『日本語と日本語教育』慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター40号
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房
- 小椋秀樹 (2014) 「BCCWJにおける複合動詞後項の表記の実態」『第6回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』
- 前川喜久雄 (編) (2013) 『講座日本語コーパス第一巻 コーパス入門』朝倉書店
- 森田良行 (1978) 「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』早稲田大学語学教育研究所